

## 令和3年度の教育活動等に対する学校評価書

学校法人富士学園 静岡県富士見中学校  
学校法人富士学園 静岡県富士見高等学校

### 1 本年度の重点目標（学校評価の具体的な目標や計画）

#### (1) 学校改善の継承と推進

「第3期5カ年計画」の3本の柱「学習活動と部活動の充実」「生徒の自主性の育成」「学校の独自性の追求」を継承し、それに基づいて策定した諸目標の達成を図る。校務運営委員会とカリキュラム等開発委員会などの各委員会との連携を強化し、教育計画を効率的に実施するとともに改善の推進に努める。

#### (2) 学習支援の強化（学習習慣の定着）

学習の中心は、授業である。教員一人ひとりが研修を積み実力の養成に努めるとともに、生徒の学習意欲を引き上げ、自発的な学習の姿勢を育てる。また、昨年度整備されたICT環境を利用し、より効果的な授業を模索する。

#### (3) 高校の生徒募集の安定化

R2年度高校入学者数311名（外進生293名、内進生18名）に対して、R3年度入学者は322名（外進生304名、内進生18名）となり、やや増加した。しかし、地域における中学生数は年々減少傾向にあるため、これまで以上に充実した教育活動と楽しい学校生活を併せ持った環境にすることが必須であり、地域における中学生や保護者から更に信頼される学校にすることが大きな課題である。

#### (4) 中学校の運営・推進と生徒募集の安定化

R2年度中学校入学者数は23名であったが、R3年度入学者は10名と大きく減少した。原因として、コロナ禍により見学会や説明会などの広報的な行事が早い時期から開催できなかったことや、長距離の通学を避ける傾向があったこと、更には、昨年度の入学者選抜において、例年になく不合格者を多く出した事が考えられる。従って、地域の小学生やその保護者の実態把握や外部からの情報の分析などにより、教育活動の工夫や生徒募集の改善に努めなければならない。

### 2 自己評価とそれに対する学校関係者評価

【※ 評価は、A（十分に成果があった）、B（成果があった）、C（少し成果があった）、D（成果がなかった）】

1. 学校改善の継承と推進		
実践計画	<p>(1) 「学習活動と部活動の充実」 入学した生徒が学力を向上させ、希望の進路を実現できる学校づくり、部活動を通じて心身の充実を図るとともに、その成果によって、地域に誇れるような学校づくりを推進する。</p> <p>ア 学習活動 生徒の学習意欲を高め、それぞれの進路希望に応じて、必要な能力を向上させることにより、特に国公立大学や難関私立大学への合格者数の増加を目指す。 平成30年度卒業生における国公立大学合格者数が21であったことに対して、令和元年度は33と大幅に増加したが、令和2年度は25（既卒者2名を含む）と元年度に対してやや減少した。 国公立大学合格の中心となるべき特進I類の生徒数が令和2年度は50名であったのに対して、新3年生の特進I類は38名と減少し、更に、各種模擬試験の結果がやや低い状況にあることから、生徒の意識や教員の指導力の向上が大いに望まれる。 新2年生については、特進I類の生徒数が40名と少ないが、各種模擬試験の結果は新3年生よりは良好であるため、この状態を維持し、2年後の受験に活かしたい。そのためには、教員間で個々の生徒の情報の共有化を更に進め、HR担任や教科担当などの連携を強化し、よりきめ細かな指導を進め、合格者数を安定させたい。なお、新1年生特進I類は47名となっている。 ・大学見学を1学年の6月に実施し、早期に進学の意欲を持たせる。 ※例年であれば、特進コースは東大と難関私立大を、進学コースは帝京大を見学していたが、令和3年度について、現時点で、大学側の受け入れが困難との返事を得ており、実施は中止とせざるを得ない。 ・補習だけでなく、学力の定着状況の評価や学習目標に関する面接指導により入試に対する学力や意欲の向上を図る。 ・体験学習への積極的な参加をさらに推進する。 ・進学コースについては、昨年度、基礎学力の定着を主眼にベネッセの「マナトレ」を活用し、到達段階に応じてテキストの難易度を上げていくことができた。また、資格取得のための対策時間を設け、漢字検定やLiteras論理言語力検定、ビジネスコミュニケーション検定など多様な資格で高い合格率を示したが、補習を希望する生徒数の減少傾向が見られたので、今年度は希望数を増加させる工夫が必要である。 ・昨年度、進学コースの教室も含めてすべての教室に電子黒板が設置され、Wi-Fi環境が整えられたことを活かし、更なるICT活用等により学習効果を高める。（継続）</p> <p>イ 部活動 (ア)多くの生徒が部活動に所属し、有意義な放課後にする。 4月に部活動加入WEEKを実施し、実際の活動を体験させることにより、入部後の混乱を防ぐ。 (イ)学校全体で、部活動を応援できる体制づくりを推進する。 ・生徒会新聞に部活の活躍等を載せ、学校全体で情報を共有する。（継続） ・本校のホームページに部活動の成績や、活動内容を詳細に掲載する。（継続） ・部活動等の成績を、積極的に報道等に提供する。（継続）</p> <p>(2) 「生徒の主体性の育成」 生徒一人ひとりが、問題や課題、将来の目標を見据え、自ら考え、工夫し、行動し、達成感を得ることのできる学校づくりを進める。 また、昨年はコロナ禍で、多くの学校行事が中止され、生徒の活動が制限されたため、本年度は可能な限りにおいて、学校生活を活性化させるため学校行事を開催したい。 ・富士見祭や集会での生徒会本部や各委員会の自主的な活動を一層活性化させる。 ・高校特進コースにおけるHAPや中学のF活動などで、生徒の自主的な活動参加などを推奨し、将来の夢の実現に必要な資質能力の伸長を促す。 ・学校説明会などにおいて、在学を説明者として参加させることにより、表現力やプレゼンテーションの能力を高める。（継続）</p> <p>(3) 「学校の独自性の追求」 長い伝統を持った私立高校としての特色を更に伸ばし、生徒一人ひとりが愛校心を持ち、楽しいと思えるような学校づくりを目指す。 ・英語学習を更に強化し、当面オーストラリア語学研修の実施が困難であることから、それに代わる国際理解を高める活動を模索する。 ・「地域への情報発信」の手段として、看板設置、ホームページ等を更に工夫する。（継続） ・生徒が校外に出て地域への貢献活動、地域への発信力を高める活動を推進する。</p>	
自己評価	<p>・国公立大学合格者は進学コースから静岡大学への合格など、共テ課さない推薦で7名、共テ課す推薦で1名が合格している。中でも浜松医科大学医学部医学科への合格は特筆すべき実績である。前期、後期で昨年以上の合格者を出すことが期待される。 ・就職状況は、テルモ4・ジヤトコ3・アサヒ飲料1・パーパス4・三生医薬3・東芝キャリア1・日本軽金属1・日軽蒲原1など、地元大手企業を中心に内定率100%を達成した。（消防2・自衛隊1） ・感染症対策等を徹底しながら、臨時休校等することなく教育活動を実施し、生徒の学習保障に努めた。 ・緊急事態宣言発令中は感染不安により、登校できない生徒には、ICTを活用し授業の配信や課題指導を行い、学習成績等に不利益が生じないよう対応できた。</p>	<p>評価</p> <p><b>B</b></p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての職員に iPad を配布、全教室で電子黒板が整備され、授業改善に繋がり、生徒にも概ね好評であった。（活用例：授業内容を振り返る、興味・関心を高める、生徒が発表する、わかりやすく説明する、実演でやり方を示す、知識・スキルを定着させる等など）</li> <li>大学見学は今年度も受け入れ先が見つからず中止。来年度は実施できそうな見通し。</li> <li>体験学習は警察、消防、自衛隊を招き、公務員講座の開催。湘南医療大学を招き、看護講座の実施。</li> <li>進学コース高等看護学校志望者への補習を夏休みから行い、一般受験での複数合格につなげた。</li> <li>部活動が制限される中、女子バレーボール部がインターハイと春高バレー9年連続出場、男子バドミントン部はWでインターハイ出場、新人戦で W・S・団体すべて優勝、3月の全国選抜へ団体出場、女子ソフトテニス部が個人でインターハイ出場、バトントワリング部は高文祭全国大会とバトン全国大会出場、将棋部女子は新人戦優勝などを果たしている。</li> <li>コミュニティー研究会では「富士川河川敷清掃」「鈴川海岸清掃」「定期的な学校近隣清掃」「網戸張り替え」「障子張り替え」「富士駅前商店街のイベント参加」など、地域住民との連携や協力が出来た。</li> <li>写真部では、中3の生徒が「ちびっこカメラマン写真コンクール」で優秀賞に入選した。</li> <li>中学部では富士市の医療従事者へ応援メッセージを送り「小さな親切実行賞」を受賞した。</li> <li>学校説明会は在校生の起用が定着し、中学生・保護者ともに非常に好評であった。</li> <li>富士見祭（文化の部・体育の部）、高2の修学旅行（行き先を四国方面に変更）が無事に実施でき、生徒の生き生きとした姿が見られた。</li> <li>スクールカウンセラーを生徒の様々な悩みや相談窓口として活用し、組織的な生徒の学校生活の支援に当たることが定着した。</li> </ul>	
<p>学校関係者評価委員会から</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度の学校評価書とその評価に基づいて、さらに教育活動が推進されることが期待されます。今が伸び時だと確信し、活躍されることを願い、期待しています。</li> <li>コロナ禍にあり当校教育改善に取り組みにご苦労があったと推測する。教職員皆様のご尽力に敬意を表したい。</li> <li>様々な学習活動の展開は評価でき、進学と就職において3年生が成果を上げられていることを嬉しく思う。</li> <li>当校における Wi-Fi 環境整備は大きな強み。職員への iPad、電子黒板整備など ICT 整備とその活用は効果を上げている。このことは大きな広報素材であろう。当校の特色のひとつとして、さらに有効な活用を願いたい。</li> <li>大学合格者数や部活動の活躍情報は、重要な広報素材。関係する生徒諸君の「生の声や姿」を、より多く発信されたい。この点は世間の関心が一番向くところであり学校の評判の基となる部分でもある。</li> <li>「私立高校としての特色」を理念に止めず、生徒の主体性育成に鑑み、その特色を一層具現化されることを願う。</li> <li>「国際理解を深める活動」もこの地域の特徴を活かして、ぜひ、推し進めていただき新たな特色が付加されることを願う。</li> <li>コロナの影響で各イベントも制限されている中大変と思いますが、生徒のみなさんは不安な日々を過ごしていると思われます。難関国公立、難関私立に合格者が年々増えて、また神奈川大学、神奈川工科大学と提携し、そして就職率も100%となってきましたが、これから中学、高校を考えている子どもを持つ保護者への認知度が低過ぎますので、先生方も大変と思いますが、今こそ“面倒見の良い富士見”を活かし卒業するみなさんが、本当に富士見で良かったと言ってもらえるようにしたいですね。</li> <li>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年も大学見学が残念ながら中止となりました。受験生、保護者の方も不安に感じたと思います。実際に大学を見て、進路を決める大事な機会です。来年度こそ、大学もさまざまな手段を駆使して大学見学が再開できるよう期待したいと思います。</li> <li>今年度も新型コロナウイルスの影響で、様々な難しい制限を課せられた中、出来得ること行っていただけだと思います。</li> <li>最終的に国公立大学合格者総数が何名となるかは分かりませんが、例年通りの国公立大学に加え、浜松医科大学の医学部に合格者を出したことは、来年度において入学者へアピールポイントになることは間違いないかと思えます。</li> <li>進学校として富士・富士宮地区の子供および保護者に魅力を持ってもらうためには、国公立大学の合格者を安定して40名前後輩出することが、要因の一つかと思えます。</li> <li>難関大学の合格、進学コースからの国公立大学合格など、昨年以上の合格者を期待できる点は、成果があったと考えます。</li> <li>時代や現状に合わせて全教室での電子黒板、ICTを活用し授業配信や課題指導等、授業の改善につながり、成果を得たと考えます。</li> </ul>	<p><b>B</b> (6人)</p>
<p><b>2. 学習支援の強化（学習習慣の定着）</b></p>		
<p>実践計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度初め、夏休み明けなど、学校生活の開始の時期に、重点的に、生徒の生活習慣、学習習慣の定着を図る。</li> <li>普通科の3コースについて、それぞれ以下の事柄の継続または改善を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>特進Ⅰ類 生徒の学習状況や進路意識などについて、組織的に検討し、それらの情報を関係職員間で共有する。年度間の継続性のある指導体制を構築する。HAPの活動を常に点検し、より良いものに改善する。難関大学志望理由書に対する個別指導を充実させる。</li> <li>特進Ⅱ類 全員参加のⅡ類ゼミ(週1回)の継続と、改善に努める。全員が年間2回全国模試を受験する(3年生はⅠ類に準ずる)。</li> <li>特進Ⅲ類 Ⅰ類と合同の習熟度別学習集団を編成する。2年次から早期に、国公立大学志望者対象の個別の大学二次試験対策を実施する。(継続)</li> <li>進学コース 基礎学力を定着させるための進学コースゼミや課題テスト、補習の実施と改善に努める。</li> </ul> </li> </ul>	
<p>自己評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨時休校中も、G-Suite Educationを活用しICTを活用した課題指示や生徒の状況把握が適切に行われた。</li> <li>今年度も各教科・科目毎にネット上にClassRoomを開設し、学校内でも学校外でも生徒と教師がつながりやすくなった。それにより課題の出題、連絡のやり取り、情報の管理等に活用されている。</li> <li>コロナ禍で、全体で取り組めるイベントが減少する中、工夫を凝らし、積極的に外部等のイベントに参加させる機会を多く設けた。</li> <li>大学主催の体験学習に積極的に参加する生徒の増加（静岡県大、静岡大学、埼玉大学、東京医大等多数）</li> <li>本校がグローバルクラスメイトに応募して選抜され、アメリカのオーシャンレイクス高校とネットを通じて異文化交流ができた。</li> <li>グローバルクラスメイトサミット2021に本校生徒が日本代表に選考された。</li> <li>英検準1級に2名合格。</li> <li>明治大学読書感想文コンクール入選（3名）</li> <li>静英研主催英語スピーチコンテスト東部大会入賞。</li> <li>「新しい県立図書館」アイデアコンペ優秀作品に選ばれた。</li> <li>多様な進路希望を持つ進学コースでは、大学・看護学校等合格のための補習や就職内定に向けた支援など、生徒一人ひとりの希望に合わせきめ細かく指導することが出来た。</li> <li>Literas検定合格率76%（1年3級60%）</li> <li>学校では生徒は落ち着いて授業を受けているが、家庭での学習習慣の定着が課題である。</li> </ul>	<p>評価 <b>B</b></p>
<p>学校関係者評価委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各生徒の学力を見極め、それに合った指導が成果を上げるのに大変なことですが、必要だと思えます。</li> <li>諸先生方のご尽力・ご苦労により生徒の学習習慣の定着に向け、丁寧で熱心な学習支援がなされる様子が良く伺える。</li> <li>昨今の状況下、昨年以上にICT活用が展開され、その教育効果を上げていることを知ることができる。</li> <li>大学主催体験学習会、外部のイベント、コンテスト等への参加が増えてきた様子。各自が主体的に行動し、それぞれが自信を付けていく上で好ましく、今後ますます必要な取り組みであると感じる。</li> <li>家庭学習の習慣化は「やらされる」から「自らがやる」姿勢にどのように転換できるかがポイントとなろう。自らが仲間や教員との活動や対話を通して「気づき」に至った時に、その転換がなされる。また、外部イベント等への自主的参加もこの「気づき」につながる行動・活動のひとつと考える。</li> <li>学校全体で生徒の生活や学習の支援を手厚く行っているため、生徒が生き生きとして学校生活に取り組んでいる様子が伝わってきます。</li> </ul>	<p><b>B</b> 6人</p>

から	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英検、感想文コンクール、英語スピーチコンテスト等目標に向かって積極的に取り組んで素晴らしい結果を出しています。これからも継続して定着させてほしい。</li> <li>・コロナ禍で、感染症対策を徹底しながら、臨時休校することなく教育活動を実施できた事は、先生方関係者のみなさんの日頃の努力の結晶だと思います。</li> <li>・登校できない生徒に対して、ICTを活用した授業の配信や課題指導を行った事は、学習効果が高まったと思われます。生徒や保護者側からしても、学習意欲が高まると思われますので更なる活用をして欲しいと思います。</li> </ul>	
<b>3. 高校の生徒募集の安定化</b>		
実践計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面倒見がよく進路に期待の持てる学校にするため、具体的方策を模索する。</li> <li>・一人ひとりの生徒が楽しく学ぶことができる学校にする。</li> <li>・広報活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>教育広報部の職員、管理職等による中学校訪問を更に効果的なものにする。</li> <li>本校を直接みてもらう機会を多くする。</li> <li>説明会や見学会などにおいて、在校生による説明の機会を増やす。</li> <li>本校生徒の地域活動への積極的参加により、富士見校の存在感を高める。</li> <li>学校のホームページや各看板の内容を工夫する。</li> </ul> </li> <li>・大学に接続している高校において入学者が増加する傾向にあることから、現在、高大連携をしている神奈川大学、神奈川工科大学以外にも、可能な大学との連携を模索する。</li> </ul>	
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は広報活動の強化に努めた。(学校見学会3回、体験入学2回、個別相談会10回、塾経営者対象1回)</li> <li>結果として、生徒急減期の中、昨年並みの入学者を確保でき一定の成果を得た。しかし、定員確保出来ない状態が続いており、さらなる改善が急務である。</li> <li>・神奈川大学、神奈川工科大学との提携強化。来年度は大学でもの作り体験や見学会などを計画中。</li> </ul>	評価 C
学校関係者評価委員から	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒数の減少という状況の中で大変ですが、本校に入学した生徒たちが、このように高校生活を楽しみ頑張っているという姿を知ってもらえることが大切で、それが生徒募集の安定化に繋がっていくと思います。</li> <li>・広報活動の強化報告から関係の先生方の真摯な取り組み姿勢が感じとれる。今後も継続を願うと共に、これまでの実践を詳細に吟味・分析され、定員充足に向けたより効果的な方策を見出して欲しい。</li> <li>・「HPや各看板の内容の工夫」は、今後どのような変更・改定がなされようかとされているか。SNSの効果的活用も検討願う。</li> <li>・当校において「大学と接続」とは、どのような領域を考え実施されているのか、その狙いとすることを伺いたい。</li> <li>・高大連携については、当校の目指す教育の領域をより明確なものにすることで、現在、探られている他大学機関との提携も実現可能となるのではないかと。</li> <li>・「提携強化を図る」について、在校生の家庭を始め、地域にどうお伝えしているか関心の向くところ。「もの作り体験」「見学会」以外には、どのような分野・領域を想定されているか。</li> <li>・少子化が進んでいる中、昨年並みの入学者を確保できたのは、広報活動の強化によるものと思われます。</li> <li>・本校の大学進学、部活動の成績、就職先等を前面に出したPRで一層の生徒募集につなげたい。</li> <li>・全国的に子供の人数が今後は減少する一方であることが統計で知られています。富士・富士宮も例外ではありません。さらに、あちらこちらの富士・富士宮の高校で、学年のクラス数が減ったと聞いています。今後も各学校間で生徒の奪い合いになることでしょうか。</li> <li>・今年度も前年と同じほどの生徒数を獲得できたのは良かったですが、やはり定員を割っているという事実は変わりません。</li> <li>・新設した総合コースが、どのような反響を呼ぶかを注目したいと思います。</li> <li>・生徒一人ひとりの進路希望に合わせた、きめ細やかな指導ができる高校をアピールする事が大切だと考えます。保護者側からの信頼を得られるような広報活動も必要かと思えます。</li> <li>・神奈川大学、神奈川工科大学の連携のアピールを強化し、さらに他の大学との連携も増やす事ができたら、富士見高等学校の強みになると期待します。</li> </ul>	B 3人 C 3人
<b>4. 中学校の運営・推進と生徒募集の安定化</b>		
実践計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態を踏まえた学習指導計画の改善と個性を伸ばす指導を工夫する。</li> <li>・8限に自主活動(部活動または自主学習等)の効果高める工夫をする。</li> <li>・教科の学習、F活動、学校行事等の相互の関連や育成したい資質能力との関連などを確認し、より効果的な活動を検討するとともに、学校生活が楽しくなるような行事を模索する。</li> <li>・広報活動、入試の回数・方法等、志願者数を増やす工夫をする。</li> </ul>	
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生全員に専用のタブレット端末が整備され、授業等で活用され、授業の幅の広がりが見られた。</li> <li>・中学校生徒会の委員会活動が活性化し、今まで以上に縦割り活動を強めることが出来た。異学年の交流を図ることで、親睦を深めることや下級生の世話をする中で、上級生としての自覚を育むことができた。</li> <li>・検定取得に力を入れ、英検準2級(3)、3級(19)、漢検準2級(3)、3級(19)に合格者を出すことが出来た。</li> <li>・塾主催の静岡県統一模試を複数回にし、地元の中学生と学力が比較できた。</li> <li>・今年度は広報活動の強化に努めた。特に小学校訪問や塾訪問の回数は過去最高の訪問回数になっている。また、学校見学会2回、体験講座2回、入試説明会2回、塾経営者対象1回など、イベントの開催にも力を入れた。</li> <li>・中学入試においては、昨年度よりも入学者数は増加したが17名にとどまった。生徒・保護者・地域社会の三者から信頼を受け、支持される学校づくりを目指すため、どのような生徒に入学してほしいか? どのように生徒・保護者に志願を働きかけるアピールポイント(特色・特徴)を作るのか? そして募集活動をどのようにするのか? といった諸問題を早急に検討し直し実行に移す必要がある。</li> </ul>	評価 C
学校関係者評価委員から	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒数の減少という状況の中で大変ですが、本校に入学した生徒たちが、このように高校生活を楽しみ頑張っているという姿を知ってもらえることが大切で、それが生徒募集の安定化に繋がっていくと思います。</li> <li>・今年度、過去最高の訪問回数実績の報告には敬意を表したい。定員に欠けるも17名に伸びたことはご尽力の賜物。が、定員確保に向け、まだまだ対応へ改善は望まれる。何を「プラスα」していくことが、充足に効果があるのかを探って欲しい。</li> <li>・タブレット端末導入で「授業の幅」が広がり、生徒にも変容が現れたはず。生徒の変容は大きなセールスポイント。</li> <li>・統一模試からどのような点が比較出来たのか興味を覚える。当校生徒の「強みは?」、「弱みは?」、「対応策は?」。</li> <li>・生徒募集では、送り元の小学校に丁寧な勧誘説明がなされていることと思う。同時に、卒業生の「声」もお届けできるならインパクトは強い。生徒のこぼれ「語り伝える」ことの効果は説明会などで実証済み。中学生の「母校訪問」のような形態が実践できると、面白い効果を生むかもしれない。</li> <li>・小学生の保護者から富士見中学の話は出てきません。広報の先生方もご苦労されていると思いますが、やはり小学生の保護者が私立に何を求めているのか、リサーチするべきと思われます。どうしたら聞けるか?かなり大変です。ですが、やらなければいけません。富士見中学を広く深く浸透させましょう。まず、保護者会(常任委員会)の母親委員に聞くのはどうでしょうか。</li> <li>・コロナ禍での中学校生徒募集はとても厳しいと感じられました。そうであっても地道な広報活動を続けて、特徴のある富士見中学校の魅力を伝えていってほしいと思います。</li> <li>・先日も先生が「中学の生徒を増やすこと＝高校生数数の安定化」と仰っていましたが、私もその通りだと思います。</li> </ul>	B 2人 C 4人

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生と保護者の両方が、敢えて富士見中学を選択する理由を作っていかななくてはならないと思います。そのために実際の現場の声である保護者から、今までより積極的に意見を求め、変化を取り入れるのが重要と思います。</li> <li>・他の中学へ入学した保護者の方々から、「説明会で感銘したのに話していたことと違うし、手厚くと言っておきながら一部の子しか手厚いサポートをしてくれない。」という話を多く聞くようになりました。今が富士見中学の生徒を増やすチャンスだと思います。</li> <li>・開校以来、生徒が増えない事は、とても残念です。</li> <li>・二人の娘を通わせた保護者としての感想としては、中学生という難しい年頃でもあると思うので、学習面だけでなく集団生活の中での協調性を身につける等、人間性を高める教育、指導も必要の一つかと考えます。</li> </ul>	
<b>学校関係者評価委員から、その他の意見</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方の献身的な取り組みを強く感じる。先の卒業式において卒業生が当校の教育に満足され巣立っていく姿を強く感じた。</li> <li>・生徒数確保に向け継続して対策を講じて欲しい。大学合格者数などにも生徒数が影響することは自明。私学における学校経営視点からも重要である。</li> <li>・教育現場が内向きベクトル（生徒と教員間）であるのは当然だが、現状を踏まえ、管理職の皆さんには外向きベクトル（発信）を意識して欲しい。</li> <li>・卒業生が当校の教育をどのような感じ、自分の進路成果（大学合格、部活全国大会）をどう捉えているかは世間が一番知りたい「学校評価」のポイントとなる。生徒が母校中学へ「進路決定の報告」に出向く等、先生方に止まらず学校全体で当校の「今」を伝える方策を探って欲しい。</li> <li>・HP、Facebookを拝見すると告知や結果報告が主体か。一方で、利用者が関心を持つと思われる生徒さん達の「生の声」が見られない。ひとつ山を越した生徒さんたちの「声」等がアップできたら、家庭、地域、出身校にもお届けでき、地域の方々がいまの「富士見の姿」を知る機会となるはず。</li> <li>・この地域は海外からの人たちが多く住み、居ながらにして国際交流を推進出来る可能性を備える。当校の取り組み方次第では、地元での国際交流を展開できる。これまでの海外研修の実施と共に、地元での国際交流体験を通し、生徒の「国際感覚育成」が日常でも展開されることを願う。</li> </ul>		
<b>今後に向けての学校の考え（学校関係者評価を受けて）</b>		
<p>本校を取巻く社会情勢は大きく変化しています。今後ますます少子化が進み、グローバル化、情報化の面での急速な社会の変化が考えられます。本校でも国の新学習指導要領の令和4年度からの学年進行による実施に合わせ、グローバル化のすすむ社会でも対応できる英語力の育成や大学入学共通テスト、大学ごとの個別試験の変化等への対応を迫られています。</p> <p>日々、変化していく社会情勢の中、静岡県富士見中学校が今後も存続していくためには、地域社会のニーズを的確に把握し、建学の精神に基づいた特色ある教育の場となるよう迅速に改革し続けなければなりません。それを進める大きな指針として、学校関係者評価委員の方々から寄せられた一つひとつの意見を真摯に受け止め、今後関係部署で十分な検討を行い、実行に移すことが必要になります。</p> <p>令和4年度は、在校生・卒業生が富士見で学んで良かったと思えるよう、全教職員が日々の教育活動を充実させるとともに、本校の魅力を改めて分かり易く整理し、富士見で学びたいという意欲が高い生徒を受け入れるために、あらゆる情報を多様な募集・広報活動で発信し、入学者の確保を図ることを重点目標に学校運営の充実・改善に努めます。</p>		